

阿智村学校のあり方PTA(保護者)懇談会 会議録

○ 会議日時 令和6年8月23日(金)午後6時

○ 会議場所 阿智村コミュニティ館 2階ホール

○ 出席者 委員長：岡庭 潤

委員：熊谷 節子 井原 毅 田島 佳世 熊谷 直哉
上條 雪絵 小笠原和司 櫻井 朱

保護者：15名

校長：齋藤 圭子 唐木 弘志

議員：小林 義勝 熊谷 恒雄 田中 真美

教育委員：原 勝人 熊谷 歩 塚田 宏子

【教育委員会 事務局】

教育長：黒柳 紀春 教育次長：川上 悟 学校教育係：村田 浩一

学校教育専門主事：松澤 徹(全体進行) 川上 清宏 佐々木 豊

英語教育専門員：両角 明浩

1 はじめの言葉 (松澤専門主事)

皆さんこんばんは。ただ今より、学校のあり方PTA保護者懇談をさせていただきます。よろしくお願いします。

2 教育長挨拶

こんばんは。本日は、PTAと保護者会の懇談会ということで会議を開きましたところ、お仕事が終わってお忙しい中、まだ夕飯も済ませていない方もおられるかと存じますが、会議にご出席していただき誠にありがとうございます。

本日は、清内路小学校が村内6小中学校の先陣を切って2学期の始業式となりました。来週の月曜日に第一、第二、第三、浪合と4つの小学校が始業式になります。阿智中は1番遅れて29日に始業式となっております。いずれにしましても、来週には村内小中学校全部合わせて村の小中学生507人が2学期の学校生活に入ってもらふことになります。

さて、あり方検討委員会が4月に発足してから何回も会議を開いてきました。また、6月には全村フォーラムを中央公民館で企画したわけですが、より多くの村民の皆様の声をお聞きして、それを学校のあり方検討委員会の審議の参考としてまいりたいという趣旨で本日のこの会が開かれております。

今日の資料に、阿智村教育委員会がどんなことを検討委員会の皆さんにお願いしたかということが書いてあります。1、今後の時代、社会を見据えた学校と地域との関係性について、2 持続可能な学校のための教育理念や目標、制度等について、3 これからの子どもたちに育むべき資質や能力について、この3つが教育委員会が検討委員会にお願いした諮問内容であります。この内容を検討していただき、2年間かけて教育委員会へ答申していただくという運びとなっております。それでは、よろしくお願いいたします。

3 P T A 連合会長挨拶

こんばんは。村6校PTA連合会長の北沢ですが、本日所用により欠席させていただきますので、代わって副会長の原より挨拶させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。以前より村の教育委員会で学校の在り方委員会を発足させ、各学校への説明を行っていただいておりますが、生のご意見をお聞きしたいと思ってきました。これより説明があるかと思いますが、聞いていただいた上で意見いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

4 自己紹介

松澤専門主事、川上次長、齋藤校長、唐木校長、岡庭委員長

5 学校のあり方検討委員会の設置と経過について（松澤専門主事）

本日は、先に配りましたアンケートの質問内容に合わせて、ご意見をいただきたいと思います。

（資料をもとに、あり方検討委員会設置後の取組内容の経緯を説明）

①5月18日 オンライン講演会について

②6月29日 全村フォーラムについて

③阿智村の教育ビジョン(中間まとめ)と学校のあり方についての意見投稿について

それでは、アンケートに沿って順番にご意見いただければと思います。発言の際は、記録の関係でマイクを使ってお名前をおっしゃっていただいてからお願いしたいと思います。

それでは最初に 諮問の1に関して、今の時代の社会を見ての関係性、または、学校における地域としての参加の仕方、地域と学校との関わりについてご意見ある方はお願いいたします。

6 懇 談 ・ 進行：松澤専門主事

① A

先日の小委員会に参加させていただいて、その中間まとめの方向性を拝見しましたが、私としてはこの諮問に対する現状をどう捉えられていて、教育委員会で課題をどう考えられているのかが全く見えていないと感じています。

今日の資料を見ると少子化である、教育予算はそれに対して増大している、学校の施設が老朽化しているというような課題を読み取ることができますが、例えば、諮問 1 の「学校と地域の関係性について」は、教育委員会としてはどういう課題を感じられているのかについてお聞きしたいです。

諮問の 2、3 それぞれお聞きしたいと思います。これを諮問されたということは、ここに課題があるということと思うんですが、今、現状としてどういう課題があるのか課題をどういうふうに教育委員会で捉えられているのかということをお聞きしたいです。

② 教育長

課題ばかりではなく、現状を踏まえた上でこれからどうしていくかという視点もあるかと思っています。

1 つには、圧倒的な少子化が進行しているということ、これは避けられない事実だと思っています。それがなければ、あり方検討委員会の立ち上げはありませんでした。来年 3 月までの母子手帳交付における出生数では、今年度も昨年度並みの 20 人前後という数字が出ています。

2 つ目としまして、教育費の面がございます。今日の資料に各小学校毎の予算が載っておりますが、必ずしも予算は児童数の多さに比例してないことがわかるかと思っています。児童数の少ない学校でも必要な経費は予算として計上していますので、むしろ児童数の少ない学校の方が割合とすれば予算が多く盛られているところでございます。教育予算がとても多い数字に見えますけれども、私どもとしますとそれだけきめ細やかな対応をさせていただいていると考えております。第二小学校や第一小学校は築 50 年という耐用年数になってきていますので、そういったところも教育委員会としてはこれからの課題として当然捉えているというところでございます。

次に、諮問 1 についてでございますが、今後の時代・社会を見据えた学校と地域との関係性について、特に人口減少、高齢化が予測される状況で、学校にはどのような役割が求められるのか、今後の学校と地域のあり方やその可能性について具体的な案の提出を求めています。各小中学校には学校運営協議会が設置されておりますが、今、どこの小中学校でも地域の皆さんとの関わりを大事にして、様々な行事を設けています。村でも、ふるさと学習委員会を立ち上げて、それぞれの地域をよく知り、学び、そして地域をこれか

らどうしていくのかを考えてもらうふるさと学習に力を入れています。ですので、地域と学校との関係性において、さらにどうしていったらよいのかといった取り組みは、必ずしも課題というわけではないと思っています。

少子高齢化が進んでいる時代に、果たして本当に今まで通りの地域と学校との関係性が維持できるのか、保てるのかという問題があります。なかなか難しいところで、PTAの中にはもっと一生懸命やりましょうという人もいれば、もうこれ以上の関わりはで制限してほしいという声もあります。自治会の中でも、自治会や村のお役を減らしてほしいという声がでています。今まではできたけれども、これからの時代や社会ではできないような状況がでてきている中で、新たな取り組みや方法、あるいはもっと別の道を切り拓くような示唆、そんな声を聞かせていただければありがたいと思います。

③松澤専門主事

地域との新たな関わり方がこれからの学校について必要ではないか、あるいはこうなっていったらいいのではないかという、そんなご意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

④B

教育長の話を聞いて、他の市町村の人口減少について、私は去年かその前にその人口減少を個人的に調べていたのですが、この近隣の市町村でどれだけ阿智の人口が減っていつているか、子どもの数が減っているかを調べた時に、他の市町村よりも人口の減少がものすごく早いというのをグラフにして、10年20年はずっと自分で調べたのです。30年前はダメだったのですが、ここ20年ぐらいから安定している中で、下條とか飯田の周りの同じような立地の中でも、人口の減少が速いという原因はどこにあるのかなというのを自分の中で色々調べていたのですが、これというのはありません。

教育委員会がやってきたことも人口減少の一部を担っているんじゃないか、減らしている原因の1つになっているのではないか、ということも私は考えたのです。例えば、1番良くないのは行政の人口減少対策が的を射ていなかった。ここ10年、20年。他の市町村に比べてなかなかその人口減少対策が的を射ていない。行政のいろんな要因があると思うのですが、やっぱりそういう人的要因というのが結構大きいのではないかと。他の市町村に比べて同じようなピッチなのに、なぜこの村だけが人口が減っていくか。

今年、人口戦略会議が東京で開かれ、2050年までに消滅可能な市町村に阿智が選ばれていますよね。20数年後には消滅してしまうような可能性がありますとも。もうちょっと頑張らなきゃいけませんよという一つに選ばれて。これ10年前にも選ばれたのではないですかね。私は本当に情けないと思うの

ですよ。なんでこの10年、20年でそういう対策をしっかりと受けてこられなかったのかなというのが。教育委員会や村の行政の対策も的を射ていなかったけれど、教育委員会がその人口減少対策に対してもっとやれることがあったのではないかなと私は感じるのですよ。教育委員会でいったら学校教育というのはメインだと思うのですが、先ほど教育長がおっしゃったように、社会教育がやっぱりいろんなところにあると思うのですね。PTAとか保護者会もこの社会教育の組織の1つだと思うのですが、先ほど教育長が言ったみたいに、その地域にある教育、社会教育が直に繋がっていて、それが負担になる部分が社会教育の事務局として仕事をしている、その教育委員会がいろんな指導ができたのではないかなと。

去年ぐらいからずっと、隣の平谷の記事が出ると毎回聞いていて、自分で面白いなと思って見ているのは、平谷の作ったフラットという組織、これはPTAとかそういうのを全部なくしてしまいました。(持続が不可能な市町村に)今年選ばれてしまったのですが、やっていることはだいぶ進んでいると思うのです。その人口減少、子どもたちをできるだけ減らしたくないというのがフラットで、平谷のヒラという意味がフラットという名前から来ているのです。それと同時に、平等という意味があると言うのですよ。逆にその平等って何かって言ったら、外から来た人でも平等に意見が言える、その意見を平等に皆さんで理解しあってその組織を作ってく。これなかなかね、ローカルルールで外から来た人の言うことは聞かない、年上の言うことを聞くと、若者や女の言うことは聞かないぞ、みたいなローカルがやっぱ村にはあると思うのですよ。そういうところにちょっと踏み込んだその平谷のそのやり方は、今後の未来を、先を見た組織のやり方なのではないかなと。阿智村もやってみたらどうかと感じました。

できるだけ社会教育の部分で、教育委員会が人口減少、そんなことをやらなければいけないのですよ。いろんな政策をやらなければいけないけれど、人口減少に対して、社会教育でいろんなところに教育委員会が携わっていることをしっかりと分析して、それで若い人たちが出ていかない、つまり、20代、30代の女性がそこにいるかないかという分析らしいのです。その消滅する理由の、PTAとか保護者会のお母様たちの意見がもっと出されるよう、そういう村の社会を作っていた方が今後の未来につながるのではないかと、それをちゃんと実行していった村を作っていくというのが将来のその町村の人口減少対策につながって、子どもたちがもっと増えるような、急激な減少から抜け出せるのではないかと思います。

⑤松澤専門主事

人口減少の話がありましたけれども 学校あるいは社会教育の話が多いの

かなって思います。学校、社会教育、学校と地域との関係なのですね。そういう色々な地域の人たちの学校に携わるとか関わるとか、交流や人との関わりがあるかとか、意見を言えるかとか、そういう風に捉えて考えていくという必要があると思います。

⑥B

それもあると思います。あるけれど、私のところでも今の若い人たちの負担が多いという、先ほど教育長が言ったみたいなの、そういう声もやはり大きいです。その辺をしっかりと教育委員会がある程度入って助言しながらやってほしいです。やっぱり年上の人たちの方が意見強いですね。どうしても合理的な話し合いをしてもなかなか論理的には話ができない。将来を見据えた時に、人口減少というのを考えて、教育委員会から助言や指導というのをしてもらった方が良くなっていくのではないかと思います。

⑦松澤専門主事

いわゆる保護者とか一部の人たちの負担になっているということもあるので、より多くの地域というか、参加してやっていくのは重要なことだと思います。よくわかるのですが、関係性というところでお願いしたいと思います。

⑧C

例えばそういうところで、地域との関係、地域との繋がりに求めることとしては、統計は全然把握していないのですが、今現在発達障害と呼ばれる児童が多い、また不登校とかあるし、障害を持って学校に行けない、行きたくてもいけないとか学校に馴染めないお子さんが多いんですけれども、そういった人たちに開かれた学校作りというのは今後大事になってくるのかなと思います。学校の中で作るということは理想ではあるのかなとも思うんですけれども、その学校に行きたくても行けない人たちの居場所作りのところ、きちんとした専門家による支援が受けられるという、そういったところも今後、視野に入れていっていただいてもいいと思います。

⑨松澤専門主事

ありがとうございます。不登校の問題がありますので、その辺りの対応を大事にして今の持続可能な学校のための仕組みとか制度というようなところとなってくるとは思いますが、不登校のお子さんにも対応したような制度をご意見としてお聞かせいただきました。ありがとうございます。

⑩D

朝の登校で見守ったり、あとはクラブ活動の講師をしたり、放課後子ども教室のサポーターをしたり、子どもたちと関わることを色々とさせていただいております。

地域もやっておりますけれども、先日、子ども教室に参加させていただいて、子どもたちと関わらせていただきました。そういった中で子どもたちに地域のことを教える立場の方たちの高齢化が心配かなと思っています。クラブ活動とかで地域のことを今までなさってきたそうなのですが、担当の方の高齢化によってそれがなかなかまなくなってきたということで、私がお手伝いをさせていただくことに今年なったのですけれども。他にもそういう放課後子ども教室のサポーターというの、参加できる人が非常に限られていて、時間が何しろ中途半端ですし、仕事をしている私たち世代、親世代というのはまずなかなかできないというのが現状で、人も足りているような足りていないような、目指すところがどこなのかちょっとよくわからないような、そういったふわっ、とした中で子どもたちと関わらせていただいています。

その中で、一保護者として学校に関わっていくと学校の関係者の立場ともなっていき、保護者であれば看過されるところが、そうして前に出ることによってクレームになったり、私はまだ経験がないですがそういった話を他の学校のサポーターの方だったりとかから様々なクレームにつながるという話を伺います。そうすると、せっかくボランティアという形で参加しているのに、そうしたクレームを受けることによって離れていくという方も実際いらっしゃいます。たった1つのクレームをすごく重要視をして、そのクレームに対して、それはこういう裏があるからそこまでおっしゃらなくても教育委員会さんの方で収まるところを、1つのクレームを過大に受け止めて、他のサポーターもそんなクレームがあるのだったらこれは気を付けないといけないね、と言って、結構ピリピリしているところもあります。ですから、だんだんそういう活動には参加しない方がいいという空気も実際起きていますが、そういう対策というのはどうしたらいいと思いますか。

⑪松澤専門主事

実際、地域奉仕ボランティアとして入っていただいている以外もそうですし、そういう方も多くある。継続していきたいのですが、1つは高齢化の問題が課題になってきている。学校と地域の方々がそういうボランティアで入るというようなことはしたいけれども、それはできない状況。諮問の1へ戻てくると、学校と地域というのは、そういう密接な関係を持ちながら、地域の方に入っていただいて、理解していただきながらまた学校を運営していく。

逆に、学校の方でも地域の方に感謝して一緒に子どもたちを育ていうようなところを共有していくということが必要だけれども、ちょっと課題があるよというようなことをおっしゃっていただいたと思います。また、どうしていけばいいかという具体的な事があつたら、学校や教育委員会の方にもお話をさせていただいたりして考えていきたいと思いますし、このあり方検討委員会のところでは、今のそういう関係を大事にしていきたい。しかし、その一方では課題もあるから、これをどう乗り越えていくか、その手立てがあればいろんな関わり方のモデルというかがあるんじゃないかというようなところを出してもらえればいいのかという風に思います。ありがとうございます。

⑫教育長

せっかくボランティアで一生懸命やってくれて、クレーマーみたいに言われたらちょっと辛いなと思います。

少し視点は違うのですが、学校と地域との関わりについて、皆さん、教育委員会が紹介している検討委員会の副委員長で信州大学の伏木先生の資料を読んでいただいたのでしょうか。確かに学校に対して色々な方が個別に関わっていただくという意味での大事さはわかりますけれど、伏木先生は学校と地域の関わりに新しいモデルを提案されています。ただ単に学校だけが存在するという形ではなくて、ちょうど学校がスクールコミュニティのように核となり、そこに保育園や幼稚園が隣接する、あるいは福祉施設や図書館、そういった様々な機能をもった施設が学校の周りに建てられる。例えば、子どもたちがどこかの施設を見学したり、あるいはボランティアをしたいという時にそうした施設と密接に関わったりしていく。学校の図書館も、子どもたちだけが利用するのではなくて、一般の村民の皆さんも入ってきて、図書館をベースにして子どもたちと地域の方が関わり合うというような、新しい学校像を提案されています。給食も今は共同調理場から運ばれてくる食事を教室までわざわざ持って行って、そこで配って食べているわけですが、理想を言えば大きなフロアに小学校1年生から6年生まで、または中学生まで、もうみんながお昼になったら食堂へ来て、上級生も下級生も一緒に食事をするというような夢というか可能性を先生は提案されています。私は、こうしたイメージを保護者の皆さんがどのように捉えておられるのかお聞きした気がします。学校だけが単独で存立するのではなく、地域との関わり方として、もうちょっと大きく捉えることはとても大事なことでと思います。

⑬A

今、地域に育成会という組織がありますが、すごく弱体化していると思っています。結局、地域で受けてくれる人がいなくて、PTAがそのまま育成会の

役員になっているというような、先ほど教育長からお話があったのですが、地域の人たちがもうどんどん学校に来てほしい、というような現状では全然なく、せっかく組織があるのに、そこに参画してくれるような住民の方たちが少ないというのはとても残念だと思います。既存の組織というのはなかなか存続していくのが難しいので、何か新しい考え方で、地域との関わりを構築していくことが必要なのではないかと思います。

⑭ E

今、学校と地域住民がどういう関わりをするかというのは、正直あまりわかりません。断片的に見たり見たりとかあるのですが、こういうことを聞かれてもよくわからないということは、私は正直なところですので、一度、現状で地域や学校が、地域と学校がどういう関わりなのかというのを示してもらえると、少しは現状を知ったりとか、この先のことを考える材料になるのかなと感じています。

⑮ F

学校と地域ということで、子どもの頃を考えると、自分は県外出身なので、花火の時期になると先生が花火を色々やってくれたというのはありましたし、畑の作業とかに地域の人が教えてくれるとか色々あったかなと思います。現状考えると、学習指導要領も色々変わってくる中で、(指導にかかる)時間も変わってくる中で、多分先生たちも色々忙しくなっているという現状があるのだと思います。時間的な制約も地域との関わりも、我々が子どもだった頃よりも難しくなっているのではないかなというのは、様子を見ていて感じるところです。例えば、単純に学校に通うということについても、昔はもう普通に、山の中から学校まで歩いたと思うのですが、今は途中まで送迎しなきゃいけないとか、色々な事件とかもあったりして子どもの安全を守るためにどういうことをしなきゃいけないとか、見守る組織ができたりとか、放課後の子供教室とかもそうですけど、安全とかそういったところで気にしなくても良かったところを気にしなければいけないところが出てきたりとか、保護者に負担というかやらなきゃいけないことが一貫していつている部分というのが色々あると思うのです。

今後、さらに学校教育が変わっていく中でどうなっていくのかというところも示していただいた上で、では、地域でできることは何なのか、あるいは、学校でもっとこうやって本当はこんなことやってほしい、行政にこんなことやってほしいということが色々出てくると思うのです。そういったところをちゃんと整理していく。時代の変化の中で保護者に負担がいつている部分があるのではないかと、学校に負担がいつている部分があるのではないかと、

その上で、自分はそうは言っても地域と学校の繋がり、地域のことを学校で学んだり、地域にただの座学じゃなくて、外に出て学んだりということはしてほしいと思っていますので、そういったことができるような環境をどうやって作っていけるのかというのは、今まで変わってきた部分とか、これから変わっていきそうな部分とかをちゃんと把握しないと見えてこないのではないかなと思うので、その辺りを示していただけたらと思います。

⑩松澤専門主事

やはり地域との繋がりには大事にしたいということもあるし、ちょっと以前とは変わってきている現状もある。これからの先の学校を考えた時に、どんなことを問題、課題としてやっていくことが地域と学校との関係を深めていく、そういうことに繋がってくるのだというところをはっきりさせながら、また委員会の方でも答申に出してもらえるとというようなところで考えていく必要があるのかなと思います。

また地域のところに戻ってもらっても結構ですが、2番の方へも進めていきたいと思います。持続可能な学校とするために、どんな学校、不登校のお子さんも通いやすいというか、安心して帰れるような、そんな学校になれば、あるいはそれより学校の制度というか教育内容はそういうことも盛り込んで、必要があればというご意見いただきましたが、どのようなことができる学校、どんなことを大事にしていける学校というような視点でご意見いただければと思います。2番についていかがでしょうか。

⑪C

今年、オーストラリア研修に村の補助が出て、皆さん行かれたと思うんですが、その反面、村内には子ども食堂があって、母子家庭の方々が現在利用されているのではないかと思います。村の方で大々的に研修参加を呼びかけていましたが、果たしてその中お子さんたちの何人か、家庭の事情でね、本当は行きたいのに行けないという気持ちを押さえていたのかどうか、というところが1つです。同じ村内に住んでいる小中学校に通う子どもは、ある種村からのその形態、格差を受けるべきではないと思っています。今後、今のテレビとかでも貧困家庭はますます貧困に陥っている状況です。テレビとかでも夏休み、1日1食で過ごしているというご家庭も見えています。なので、子どもたちが平等に村からの恩恵を受けられる制度というところになるのか。よくわからないのですが、平等というところを考えると、海外研修に村のお金を使うのではなくて、ぜひとも給食費の無償化をお願いします。そうすることによって、その村のお金が子どもたちの将来に大きく繋がっていくと思います。海外研修に行ったからといってグローバルな人材が育つというわけ

ではないと私は思っています。楽しい旅行の記憶は残るかもしれませんが、本当に世界に羽ばたきたいのだったら、自分で道を切り開いて世界に飛び立っていくのではないかと思いますので、ここで大事な村の予算を使っていく必要はないと思います。諮問の3番はちょっとかじっちゃいますけれども、グローバル化、AIとかっておっしゃっているんですけども、グローバル化なので、若い人たちは国際経験を積んで外に出てってくださいという、多分そんな思いもあると思うのです。実際、奨学金は違っちゃうんですけども、奨学金の支援制度は、地元に戻ってきてねって、地元に住んでくれば奨学金支援しますよ。でも、実際、阿智村に戻ってきて魅力的な仕事ってあるのかな。グローバル化で今人材育てますって言っている反面、あんまり産業がないところで、どういう風に子どもたちが戻ってきたらいいのかなというのがちょっとわからない。矛盾しているのかなというのも今回思いました。

⑱教育長

お考えは重く受け止めたいと思いますが、私ども教育委員会の考えも、少し理解していただきたいと思います。確かに、色々なご家庭があって、対応が違っていたり、希望が通らないことはあると思いますが、どちらか一方に重きを置いて対応していくのではなく、両方を大切にしていくのが教育委員会のバランス感覚だと思っています。

例えば、勉強をする時に学力面で授業になかなかついていけないお子さんがいて、そうした生徒をサポートすることは大事なことです。片やまだもっと伸びる力があるのに、その伸びる力を十分に伸ばしきれていないという生徒もいる時、どちらか一方にウエイトをかけるということではなく、どちらも大事にする。そうでないと一人一人の多様なお子さんたちに対する個別最適化した指導にはなっていないと思っています。経済的に苦しいご家庭があって、オーストラリアに行くお金が出せないというのはわかりますが、それはそれで、経済的に苦しいご家庭を支援していく施策はきちんと打ちながら、村としては英語教育に力を入れていますので、

こちらでも大事にしていきたいと思います、こういうスタンスでおります。ご理解いただければありがたいと存じます。

⑲G

2番、3番について意見を聞く場ですね。意見言ったことに対して色々言われると、意見言えなくなってしまうのですが、先ほどの意見に私はとても賛同できることなのですけども、意見を言って、それを理解してと言われる場であるならば、ここにいる人はみんな意見言えなくなってしまう。その辺ちょっとお願いします。

②H

教育理念とか教育の目標とか目的とか、今の指導要領とかのいいことがちゃんと書いてあるものをその通りやってほしい。もうそれは新しい未来が開けていると思うのですが、もう1つ、僕は阿智村のお金をかけてためになる人材を育てるというところにウエイトを置いてもいいのではないかと思います。

今も、地域との交流とか文化を大事にするとかあると思うのですが、今程度のものじゃ多分、その地域に愛着もわからない。例えば、大学で都会に行った時に、自分の村はこういう村でこういう文化があって、こういうお祭りがあって、こういう産業があって、すごくいい人がいっぱいいる、というのを語れるような、そういう子どもたちを育てることができたら、1回は外へ出てその後、やっぱり自分の戻る場所があるなとか、村をどうにかしたいなとか、盛り上げたいなとか思ってもらえるような、それは学校だけの話ではないかもしれないですけど、そういうところにもっとウエイトを置いてもいいと思います。阿智村の人が、村の子どもたちや自分の子どものことを考えなければ、誰も多分考えてくれないのではないですか。僕は、清内路に住んでいるんですけど、子どもたちが清内路のことを考えてくれなかったら、多分他に誰も考えてくれないのです。

もう少し話すと、その効率化とか合理化とかコスパを、例えば学校も1個にまとめてコストをかけないでやった方がいいかもしれないし、極端に言えば、みんなでバス乗って飯田まで行った方がコストかからないかもしれないというところを目標とか目的にするのではなくて、村に帰ってくる、地域に帰ってくるという、大人のエゴですけど、子どもたちは無限の可能性があって、どこにいてもとは思いますが、そこだけ考えていると、やっぱどこか行っちゃうかなという、やっぱ戻ってこないかなというところもあるので、その子どもたちに地域のことを考えてもらえるような教育をすると合わせてね。今の大人たちが魅力的な地域にしていこうというのはもちろんで、同時にやらないといけないと思っています。こうした点を具体的に諮問に落とせるかちょっと考えてほしい。

②松澤専門主事

ありがとうございます。子どもたちにつけたい力というところとも関わってくると思うのですが、この前のフォーラムの時に、12番により良い社会の実現に向けて行動できる力、代田先生が基調講演のまとめの時にこれからはエージェンシーと言って、その力がほんと大事ですよというお話をされたと思います。まさに、自分の地域というか社会を検討して変えていく、そんな力をつけたいとおっしゃっているのではないかと思います。

②② I

数値目標ぐらいにしちゃってもいいのかな、みたいな。100 人の子どもたちが出てって、今 50 人戻ってきた子どもがいたら、それを 60 人、70 人まで増やせたらいいねという目標が掲げるような。

②③ J

諮問の 1、2、3 と書いてあることは今一つ理解できないです。

難しいことはさておいて、この間、中学生の体験学習があつて。私の職場にも 2 名の子どもが参加してくれました。1 名は学校にほとんど来ない子どもですが、会社でもその子は来ないだろうと思っていましたが、その子どもが参加してくれてびっくりしました。そういう地域に根付いた教育というのは、すごく大事だなと思いました。学校に通えない子どもたちもたくさんいるようですけど、もしかしたら小学校なんかたくさんありますよね。選択制にするとかしたら、もしかしたら 違う学校だったら行ける子どもたちもいるのではないかと思います。せつかくたくさん学校あるので、別に清内路に住んでいるから清内路小学校じゃなくて、浪合の学校に行きたいという子どももいるかもしれない。そういう自由な阿智村の学校作りというのをやっていってもらえたらいいかなという風に思います。

②④ 松澤専門主事

地域に出て中学生が職場体験に参加するということを話していただきましたが、今、中学校の 2 年生が全員 2 日間の職場体験ということで、それぞれ、村の職場で体験しているということです。地域との結びつきも考えられる、大事にしていきたいというご意見、ありがとうございます。

後半は、学校制度の問題ですけれども、学校を選択制にしたらどうかという斬新なご意見ですが、それをどこまで実現するのかしないのか、こんな形があるのではないかという意見を委員会の方で検討いただければと思いますので、そのようなご意見も含めていかがでしょう。

②⑤ G

小学校の選択肢って話が来て、それに対してもう少しということでしたので、私が常に思っていることを 1 つお話ししたいと思います。私も小学校は多すぎる、少ない人数の学校が多いとは思っていて、そのうちの 1 つをフリースクール化できないかずっと思っています。うちの子どもは不登校ですけれども、村からは何の教育も受けていない人たちです。義務教育はほぼ受けずに高校進学して、今社会人になっている子もいます。そういう子たちは、別に身体的な理由、いじめがあつて学校行けないわけではないので、もうち

よっと自由で、もうちょっと幅広く受け入れてくれる学校が 1 つでもあればとは常々思っていました。こんな小さい村でできるわけでもなく、遠くの学校に通わせることができないので、どこでもいいのでフリースクールとして運営して、そういう子たちが 1 つの選択肢として、普通の学校教育ではないところを選べるようにしていただけると、とても救われる家庭が出てくると思います。

ただ、それに付随して色々な課題があると思います。まずフリースクールと学校とかで通っているところが多いとは思いますが、まずは PTA 所属をどこにするかというところ。2 拠点にしてしまうと親が大変なので、所属を 1 つにしてもらおう。あとは送迎の問題が必ず出てきます。それを村としてしっかりと捉えていただいて、送迎の負担が保護者に来ないようにしてもらう必要が必ず出てくると思います。あとは給食とか色々な課題が出てくるとは思いますが、もしこれが可能になるならば、実現できないことではないと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

②⑥松澤専門主事

ご意見、アイデアとしてお聞かせいただきましたので、委員会の方でもそのような形を考えられないのかというようなことも検討ください。

②⑦K

私は、全村フォーラムに参加して、考えを 3 つこの中から選んでくださいという（分散会で）提示されたアンケートに、正直私はこの（選択肢の）言葉から選べなくて、自分が思っているのはどれに入るのか結局うまく選べなくて、その他ということが 1 しかなくて、みんな無理やりこの中から選んだのかなと思ったのです。これはあくまでもその時参加された 76 人の方の意見であって、このあり方に関して色々な考えのある方はもっとたくさんいると思うので、あくまでも参考の 1 つとは思いますが、もうちょっと広く考えていただけたらと感じたので、それを意見とさせていただきます。

②⑧K

（具体的には、という問いに答えて）とりあえず 3 つ選べと言われてしまったので、例えば、「協調性」という表現のされ方が、私の思う言葉とちょっと一致しなかったというか、すんなり受け入れられなかったので、先生が考えられたかわからないですが、もうちょっと見方が違うのかなと思ったのですが、その言葉とそれが一致するとは、ちょっと感じられなかったので、これを元に捉えていただけたらいいかなと思いました。

②⑨ F

この資料を見ると老朽化の話になれば、自然に統合して新しい学校を作る、もう経済的な話になるとそれが1番早いというか、子どもも少なくなるし解決が早いと思うのですが、今皆さんの話を聞いて、フリースクールとか選択性とかで、あと教育長が言っていたデイサービスとか保育園とか一緒にとかすべていいなって思うのです。どれが間違っているとかもないと思いますが、地域との関わりを統合になってもフリースクールになったとしても、多分清内路はなくなる可能性が高いと思うのです。何が不安かというのは、どれも正しいのかわからないのですが、例えば1つとか2つにまとまったら清内路ってどうなるんだろうなって。清内路の人口ってどうなるんだろうなって。何も選べないというか、どうしたらいいんだろうなってずっと考えているんです。

最近、清内路を残してほしいなって思った出来事が2つありました。この間、音楽会があった。校長先生がいろんな人に声かけてもらって、多分清内路小の児童が20人ぐらいなので、70人ぐらいが来て、なんか最後、「翼をください」をみんなで熱唱してドラマみたいな感じになって、近所のおばさんが、なんかもう感動したんだよって。結構離れていて会う機会もないんですけど、学校が拠点になって人を集めて、80とか90のおばさんが泣いているんですよ。それを見て、ここって学ぶだけじゃなくって、若い人だけじゃなくって、地域まとめることもできる学校の可能性みたいなのを感じたんですね。それが1つと、娘が多分私と旦那からその学校の在り方の話を普通に子どもの前で話しちゃったりもするんですね。そしたら、娘が車の中で、『私ずっと清内路小がいい』って言ってきたんですよ。突然どうしたと聞いていると『先生たちがみんな優しいから、私の印象だからね』と言っていました。。多分、私も気にしないで話していたのが悪かったんですけど、なんかそういう言い方をしてきて。統合したとしても、選択性になったとしても、地域と繋がれる何かを、例えば学校が1つになったとしても、家庭内では浪合と何か関わられるような、なんか色々あると思うんですけど、人の関わりを持ちながらも、今言った意見、フリースクールもいいし、選択性も大事だし、教育者といったらなんかいろんな目的の人たちが、私、それも好きなんですよ。デイサービスの年寄りとも関わって、保育園もあって、すごい楽しいじゃないですか。私はすごいそれを丁寧にできたらなと思っているんですけど。

③⑩ 松澤専門主事

色々なところでどういう風な形ができて、地域との繋がり、学校とそれぞれの地域との繋がりには大事にしないといけない、それが学校の使命である、そういうご意見かなという風に思います。これとても大事なとこだと思います

す。3番、4番のところにその他というようなところであります。様々なご意見、本当にありがとうございます。

③①A

最初にこの資料を見ると、学校、教育委員会で考えている課題というのは、少子化と教育予算の増大と施設の老朽化というところが読み取れるという風に申し上げて、そういう風に教育長から説明を受けたのですが、私としては今の学校の現状として、支援が必要な子が増えている、不登校の子が、学校に行けない子が増えているというところを1番の課題として感じています。

その話題が、これまでのあり方検討委員会とかフォーラムとかで、ほとんど共有されてないのかわからないです。全部読んだわけではないのですが、ちょっと話題として上がってきてないのかなという風に、この前のフォーラムに参加した時点では感じています。そういう子たちはこれからどんどん増えてくると思うし、もう学校に行かなくても、どういう風に社会性の担保をして、どういう風に世の中に送り出していくかというところをしっかりとあり方検討委員会で検討してほしい、そういう子どもたちをどういう風に社会と地域と関わって世の中に送り出していくかというところの視点を本当に大切に考えてほしいなと思っています。

私の発言は最後にしようと思っているので今日の懇談会のやっぱり参加者数がとても少なく残念だと思います。やっぱりこの平日の午後6時の開催というのはうちもまだ夕飯作ってないですし、朝から会議だったので、とても保護者にしては厳しい時間だと思います。あり方検討委員会の保護者の立場で参加されている方たちも、ほとんど参加されていないかと思っています。こういう状況というか、この時間が参加しづらいということがわからない人たちがこういう会をやっているのかなというのが、とても私は残念です。という意見だけお伝えしておきます。

③②G

あまりに賛同しすぎて、自分が言いたかったこと忘れてしまいましたが、代弁していただいたような気持ちです。ありがとうございます。

教育委員会がカバーするところは、やはり義務教育だと思います。義務教育なので、もちろん子どもたちは親も学校に行かせなければいけない部分もありますが、教育を与えなければいけないのは親、大人の方で、子どもたちが受ける義務はありませんので、子どもたちが行きたくないって言えば行かなくてもいいのが義務教育です。

だからと言って教育行政は、学校へ行かない子どもたちを放置していくのはよくないと思います。今、不登校の子たちは無理に学校に来なくていいよ

という風には日本全国なっていますが、だからと言って行政は何もしなくていいという理由にはならないと思います。先ほど経済格差の話をされていましたが、私、経済格差だけじゃなくて、そういうところから生まれてくるのが経験の格差だと思います。それは経済的な問題だけではなくて、学校に行けているか行けていないかによって、受けている教育が違ってくるというのは、これは行政が教育の支援をしなければいけない部分だと思うのです。学校に来ないから何もしないでいいというのでは義務の放棄になってしまうので。ちゃんと、学校に来られてない子に対しても何らかの教育、地域との繋がりが大事で、地域教育が大事だとすごく言うんだけど、学校に来られていない子は地域教育を受けていないです、英語教育を受けてないです。その子たちに対してどうやって保障していくかということをしっかりと考えてくれないと、そこで経験の格差が生まれてくる。それは村として放置しといていいのか。そうじゃないと思うのですよね。なので、子どもたちは何もできないわけじゃない、ただ学校に行けないだけなので、じゃあどういう風にして教育を与えていくべきなのかというのは、その教育の多様性の中で、新しい教育を考える上でそこは討論していただきたいと思います。

③③ G

私も、すいません最後にしますが、このあり方検討会、1番初めから見させていただいています。うちの子は不登校なのですが、不登校についての話というのが全くされていないなど。阿智村はやっぱり不登校は排除の傾向にあるのだなという印象を受けながら聞いていました。今の学校の教育でも、やっぱり勉強、学力を上げることに必死になっていると見えます。そういうところに一切入っていけない子どもたち、そして、私はとても排除されている気分になってしまうのですが、オーストラリアもそうで、お金の問題だけではなく、そんなところに子どもはいけない、集団が苦手なので色々思うところがあるんですけど、今日いろんな方がその学校行けない子のお話を出してくださって、それを皆さん聞いていただいたので、今日来てよかったです。ありがとうございます。

③④ L

今、清内路小ですが、とても素敵だなと思っています。お声をかけてもらったので、体に無理をしながらも楽しみに出かけています。とても素敵な話ばかり聞くことができ、こういうところに通わせたいなという思いがしました。それは村だからできるのではないかという希望があります。飯田市ではできないけど阿智ならできる、というものを作ってほしいなというも思っているんで、今日参加させてもらいました。

私は子どもがこれから就学ですが、子どもたちってどういう課題があるのだろうというところが、いまいち、今日もですけど、見えてこないなと感じています。親とすると人間関係のかなり限られた中で、ある程度まで育つということが、例えば、保育園から小学校までの限られた中ではうまく行っていたけど、中学に行ったらうまくいかなかったとかということは想定されるし、そこは飯田市のような大きい学校と違うところで、親として心配なところでもあります。そういうことが、おそらく阿智の子どもたちに見えているものだと思うので、そういう（お子さんを持つ）お父さんお母さんに、こうなのだけれど（と話をして）、お家ではどう思うかという話をぜひしてもらったり（するのはどうでしょうか。これは）地域との繋がりにもなると思うんですが、学校と親とかでのこのこと、すごく距離感を感じて、私は外から来た人間ですが、協力してくださいと言われたら、いいよ先生なんでもやるよって言ってくれる場所だと思っているので、共に学校を作るという、アプローチしてもらったり、それを教育委員会に支えてもらったりとか、なんかそんな風になったら親は嬉しいなと思います。感想です。

③⑤M

私がシンプルに学校に求めることって色々語弊があったり誤解されることもあるかもしれないですけど、やはり最低限の学力を持ってないと今の社会、経験できることもできなかったり、行ける場所にも行けなかったり、学校に求める大きな部分かなと思います。

あとは、やはり友達との関係やコミュニケーション（能力）ですが、そういったものをもちろん学校に対して求めるところでもありますし、単純に学校に求めることは何か、と聞かれたら私はそういう意見です。

③⑥N

皆さんのいろんな意見があっていいと思っています。

今、学校に行けない、昨日も行けてない、学校に入れないということがありますが、その1、2、3番のどれに当てはまるかどうか。これに何を求めるかというところもあると思いますが、学力じゃなくて、その学力よりもっと根本的に他者を思いやる気持ちを育んでいくのが1番大事ではないかなと思っています。自分のことも大事にしてほしいけど、他者のことを受け入れて、理解して寄り添ってという、人間としてすごく大事なことかなという風に思っています。その不登校の子に対して村が放置するというのは、村がそういう自分たちと違うという形を理解しようとしてないとか、受け入れてない、寄り添ってないというのがちょっと見えてくるような気がするのです。なので、まず村が私たちと違うというところを受け入れて、認めて包み込んでい

くというような受け入れ方をしてきていただかないと子どもたちの心も育っていかないと思うので、学力ばかりでなくて優しいところとか、いろんな人がいるから自分は大丈夫とか、いろんな人がいていいんだという、そういう心を育てていけるような村とか教育づくりをしていただければと思います。

③⑦ I

行けない場合の支援もそうですが、行けるに越したことはないだろうなという風には思います。行ければ学力もそれなりにつくであろうと風に思います。じゃ、その行ける学校ってどういう学校なのかというのをしっかりと考えていく必要があるのではないかと思います。

それはやっぱりいろんな人がいるという、多様性を認めたりとか互いを思いやったりとか、そういうことができるような関係性、大人の振る舞い、保護者の振る舞いなんかも多分子どもは見ていると思います。なので、本当に村民全体がいろんな多様性を認められるような社会にしていかなきゃいけない。

③⑧ C

うちの息子は小学校に通ってはいるのですが、皆さんのお話を聞いて保護者側との考えの違いというのが浮き彫りになってきているのかな。そこを今後、あり方委員会の方たちがどのようにしてこの溝を埋めていくのかは、この話を聞いて重要な課題にはなっていくのかしらとは思っています。

平等というのは難しいかもしれないですが、みんなが同じような教育を受けて、さっき言いましたけれども、この経済格差から引き出される学歴、自分に行きたくても行けない、結局学歴がもう高卒止まりになってしまって、もう阿智にとどまるしかないというような、あるいは、このチェーン的なことがどこかで断ち切れればいいのかなどは。もう勉強したい人にはもうどんどん勉強させてあげられるような、そんな仕組みがあってもいいのかなとは思っています。

今、学校の魅力というのも、何が魅力なのか今現在よくわからない状態なんですけど、何か1つでもいいので、村の学校はこういうところが魅力なんだと村外の人たちに言えるような何かがあればいいのかな。それによって、移住してくれる方が増えれば、新しい子どもたちもこちらの学校に来ていただけるのではないかなと思っています。私の頭の中では、インターナショナルスクールはいいなと思っています。

③⑨ F

私の友達に、清内路小なんかなくなればいいのかとずっと言っていたお母

さんがいて、その子は不登校だったんですけど、最近清内路小がいいって言い始めたので、そのお母さんが変わったって言って、やっぱ校長教頭がガラッと変わって。それで彼女は急に意見を変えてきたわけで。それが自分だったかもしれないし、これからの自分かもしれないし、来年、再来年また彼女の子どもは行けなくなるかもしれない。これは、例えばどんな学校を作ったとしてもこういうことが起こり、例えばフリースクールを作ったとしても、インターナショナルスクールを作ったとしても、先生によっていいメンバーが揃ったのも、そういう運みたいなので、いけるかいけないかが左右されちゃう。それって仕方ないことなのではないでしょうか。

7 連絡（松澤 徹専門主事）

- (1) 今、紹介いただいたような学校作り、あるいは 本当に不安にならないような方法についても、心配なことや 気にかかるようなことがあれば、教育委員会の方に教えていただいて、一緒に考えていきたいと思います。

アンケート用紙に書いて置いていっていただき、ご意見箱もできておりますので、ご意見どしどしいただきたいと思います。今日のいただいたご意見も含めまして、問題のところは応援させていただきます。本当に貴重なご意見ありがとうございました。

- (2) いくつか連絡をさせていただきます。出たところに箱がおいてあるので、アンケートを入れて帰っていただきたいと思います。それからもう 1 点、託児をされている方ですけれども、 終わりましたらこの後保健センターの 2 階ですので、またお早めにお迎えいただければという風にお願いします。

8 閉会のことば

川上次長

本日は、夜分遅くではありましたが、多くの貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。以上をもちまして、学校のあり方 PTA 保護者懇談会を終了とさせていただきます。本当にありがとうございました。

（閉会 午後 8 時 4 分）